

『だから あなたが祈るときは』

【10日目 わたしたちを誘惑に遭わせず】

2025 年 1 月 17 日(金)

本当に神様がそのようなことをするのですか？

神様は聖であり、愛のお方ですから、人間を誘惑されることは決してありません。私たち人間が自らの欲望にひかれて誘惑に陥るのです。（ヤコブ 1:14、15） では「主の祈り」の中で、イエスが「わたしたちを試み（誘惑）に遭わせず」と懇願されているのにはどんな意味があるのでしょうか。神様が私たちを罪の誘惑に導くわけではないからです。

ギリシャ語を含む多くの言語では一つの単語が複数の意味を持つことがあるので、原語と文脈をよく確認する必要があります。「～に導く」を意味するギリシャ語の単語は「eisphero」であり、この節は「私たちをそこへ行かせないでください」「そこに捨て置かないでください」「行くのを許さないでください」と翻訳することもできます。「誘惑に遭わせず」という言葉のニュアンスとはずいぶん違います。

「誘惑」をあらわすギリシャ語の単語は「peirasmon」です。これは「試練、試験、逆境」などとも訳されることがあります。したがって「わたしたちを誘惑に遭わせず」というフレーズの意味は、「どうか私を放っておかないでください、さもないと私は罪に陥ってしまいます」もしくは、「すでに陥っている罪にとどまってしまう」あるいは、「私を試みられるなら、私を一人にしないで、そこに長く留めないでください。罪に陥ってしまうのが怖いからです」という解釈にもなります。

神様はときに、私たちを特定の問題のある状況に置かれることがあります。その目的は、私たちが自分自身の霊的な状態を理解し、自分がどのような者で、何が必要であるかに気づかせるためです。聖書に「自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっている」と書かれているとおりです。（黙示録 3:17） 自分が病気であるとわかれば病院に行きますが、わからなければどうしようもありません。自分がどんな存在であるかを知って初めて、人は自らの罪深さを自覚し、イエスが必要であることに気づきます。「イエスに最も近く生活する者が、人間の弱さと罪深さを最もはっきりと認める。そして自分たちの唯一の希望を、十字架につけられ復活された救い主の功績に置くのである。」（『希望への光』 1824 ページ、『各時代の大争闘』 27 章）

神様はヒゼキヤ王を試みられました。（歴代誌下 32:31） 箴言 17:3 には、神様は私たちの心を試しておられると書かれています。ダビデは「主よ、わたしを調べ、試み、はらわたと心を火をもって試してください」（詩篇 26:2）と祈りましたし、ペテロも「火のような試練」が私たちを試すためのものだと言っています。（Ⅰペトロ 4:12） 「自分の罪深いことを知ってゆるしを与えられる救い主のもとに走り寄り、魂の力なさを悟ってキリストに手を伸ばす。すると、キリストはご自分の力をあらわしてください。」（『キリストへの道』改訂第三版文庫版 92 ページ）

ですから、「私たちの魂の敵は、何とかして魂を神から引き離そうとして必死です。」（『祈り』 415 ページ） 神様から引き離すことによって、私たちが罪に陥ることを敵は知っているからです。

「主の祈り」の最後の部分で、イエスは力と勝利の秘訣を強調しておられます。私たちの唯一の希望は、常にキリストの中におり、キリストを私たちの内にお招きし、決して離れないことだと言っているのです。

「あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です。」（コロサイ 1:27） 私たちには心を新たに造り変える力はありません。しかし主のお約束は明確であり確かです。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。」（Ⅱコリント 5:17）

では、私たちは自分自身の霊的状态をどのように確認することができるのでしょうか。イエスは、信仰の実によってそれを知ることができると言われました。(マタイ 7:16) 私たちが実を結ぶ方法は、常にキリストと結ばれていることと(ヨハネ 15:1-5)、聖霊に満たされることによってです。(ガラテヤ 5:22-23)

「信仰の告白によって人は教会に加わるが、その品性と行為は彼らがキリストにつながっているかどうかを示している。」(『希望への光』 1032 ページ、『各時代の希望』 73 章)
もしあなたがキリストと結ばれているなら、実際に神様がどのように働いておられるかをすべて理解できなくても良いのです。ただ神様を信頼していれば良いのです。神様は彼のもとに来るすべての人を救ってくださるのですから。(ヘブライ 7:25)

「悪に対する唯一の防備は、キリストの義を信じる信仰によって、心のうちにキリストに内住していただくことである。」(『希望への光』 835 ページ、『各時代の希望』 33 章)

絶えず祈りによって主の御名を呼び求め、主と共に歩み、常に主のご臨在を意識しながら完全に信頼すること。決して主から離れることがないようにと、神様は私たちを招いておられます。これこそが、私たちができる唯一の努力なのです。神様は約束しておられます。「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。」(ヤコブ 4:8) 共に祈りましょう。

祈りのグループの種類や、祈る方法はさまざまです。今から 30～45 分間、聖霊に導かれるままに、一致した祈りの時間を過ごすことをお勧めします。以下は、御言葉に基づいて祈る祈りの一例です。他の聖句を読んで祈ることもできます。祈りのアイデアについてはリーダーズガイドをご覧ください。

【神のみ言葉によって祈る】

「…神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです。」（ヤコブの手紙 1 章 13 節）

「神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく」

父なる神様。私たちの代わりにイエス様が罪に抵抗し、勝利してくださったことに感謝します。あなたには少しの闇もなく、ただ善と光だけがあります。あなたはすでに罪と死に打ち勝たれたので、私たちをあなたの姿へと造り変えてくださるお約束を信じます。どうか私たちの目をあなたに向けさせ続けてください！

「また、御自分でも人を誘惑したりなさらないからです」

神様。あなたから引き離そうとする誘惑から私たちを遠ざけてください。誘惑の基となる自己中心的な欲望から逃れるための方法を教えてください。そしてあなたの汚れなきご品性に目に向けさせてください。あなたが嫌われるものを憎み、あなたが愛されるものを愛することができるようになってください。

【さらなる祈りの提案】

感謝と讃美： 与えられた祝福を具体的に感謝し、神の恵みを賛美する

告白： 数分間、個人的な告白を行い、神の赦しに感謝する

願い： 現在の課題や決断に知恵を与えてくださるようお願いする

教会のために： 私たちの教会、地域の教会、世界中の教会の働きを神が祝福してくださるように
祈る

人々の必要のために： 教会員、家族、隣人の必要のために祈る

静かに耳を傾け、応答する： 静かに神の声に耳をかたむけ、賛美と歌で応答する時間をもつ